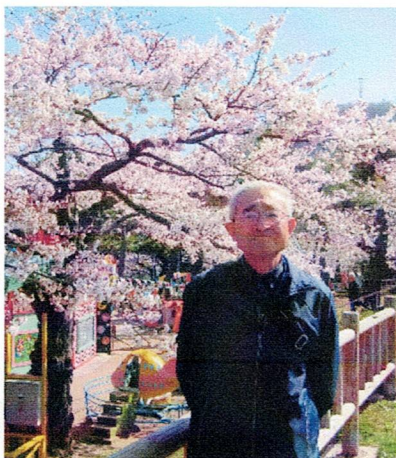


## JTB旅物語 弘前公園・五稜郭函館・青函桜紀行3日間に参加

4月23日 中部国際空港(11:15) → 函館空港(12:45) → 函館朝市(13:25~14:25) → 函館公園 → 五稜郭公園(五稜郭タワー) (14:40~16:40) → 函館市(プレミアムホテル17時泊)



空の旅を終えて、函館市内は快晴でした、五稜郭タワーの展望台までの高さは98mあり、そこからの五稜郭の姿は格別なものがあり素晴らしい風景でした。晴天に恵まれ、さらに桜は満開でした。4月初めの南九州鹿児島島の桜に、地元で桜と言ひ、3回目のお花見となる、



## 歴史の語りべ・五稜郭

「五稜郭誕生」五稜郭誕生のきっかけは、嘉永6年(1853)のアメリカ艦隊の来航、いわゆる「黒船来航」という大事件にあります。開国要求に屈した徳川幕府は、安政元年(1854)日米和親条約を締結し箱館(明治になるまで、函館は「箱館」と表記)を開港場としました。この箱館を治めるために幕府が設置した「箱館奉行」は、産業の育成や開拓を進めると同時に箱館の防備強化を図り、蘭学者の武田斐三郎に奉行所庁舎の移転に伴う新しい要塞の設計を命じました。西欧の学問や技術を研究する「箱館諸術調所」の教授を務める優れた教育者でもあった武田斐三郎は、ヨーロッパの「城郭都市」をモデルとする要塞を考案し、工事に約7年の歳月を費やした五稜郭は、蝦夷地の政治や外交、防衛の拠点、まさに蝦夷地の要として誕生したのです。



武田斐三郎(1827~1880)  
緒方洪庵塾に入門し、洋学諸術を学ぶ。ペリー艦隊が浦賀に来航した際には佐久間象山の門下にあった。洋式軍学者として製鉄、造船、大砲、築城などに明るく、箱館開港後は箱館諸術調所の教授として活躍。その後幕命により、井天台場、五稜郭の設計監督にあたった。



榎本武揚(1836~1908)  
オランダ留学を経て幕府の海軍副総裁になる。幕府崩壊後、新政府への軍機引渡しを拒否して脱走。箱館に旧幕臣による仮政権を築くが箱館戦争で敗れて降伏。後に明治政府の要職に就く。

### 「幕末の動乱—箱館戦争」

アメリカの要求に屈した徳川幕府に対する不満は倒幕運動へと発展し日本を二分する争い、戊辰戦争が起ります。大政奉還、江戸城明け渡しなど、風前の灯火となった幕府勢力の中、旧幕府海軍副総裁榎本武揚は、陸軍諸隊を收容した艦隊を率いて蝦夷地へ渡り五稜郭を占拠しました。彼らは、明治元年(1868)12月、仮の政権を樹立し、徳川家臣による蝦夷地開拓の許可を政府に求めますが、



土方歳三(1835~1869)  
軍の行商をしながら道場に通い近藤勇・沖田総司らと出会う。上洛の機会を得て、京を取り囲む「新選組」結成に参加。鬼の副長として名を馳せる。後に榎本軍に合流して箱館戦争で戦死。

翌2年(1869)春、政府は征討軍を派遣して旧幕府脱走軍への攻撃を開始、箱館戦争が勃発。圧倒的な戦力で攻撃してくる新政府軍の前に土方歳三ら歴戦の面々の抵抗も空しく五稜郭は包囲され旧幕府軍は降伏。幕末維新の動乱は終結しました。

新しい時代の象徴として誕生した五稜郭は封建制度の終焉の地となりましたが、五稜郭の歴史はここで終わったわけではありません。その後、大正3年(1914)には公園として開放され市民の憩いの空間となり、昭和27年(1952)には特別史跡に指定され、幕末維新の歴史を伝える語りべとして、人々の訪れを静かに待っています。



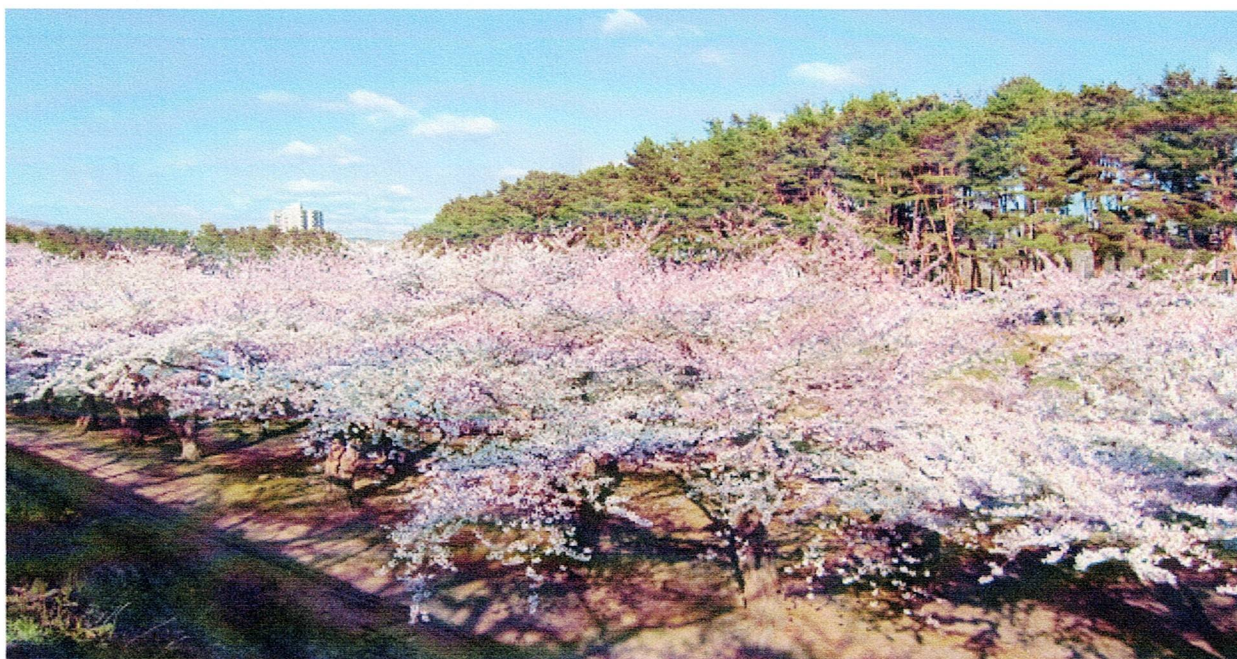
展望台の土方歳三ブロンズ像は、函館出身でローマを拠点に活動していた、彫刻家である故・小寺眞知子氏によって製作されました。ブロンズ像の基となった2枚の肖像写真が現存しており、どちらも函館で撮影されたものだと言われています。

### 展望台にあった土方歳三の写真<展望台には土方の坐像がありまそや>

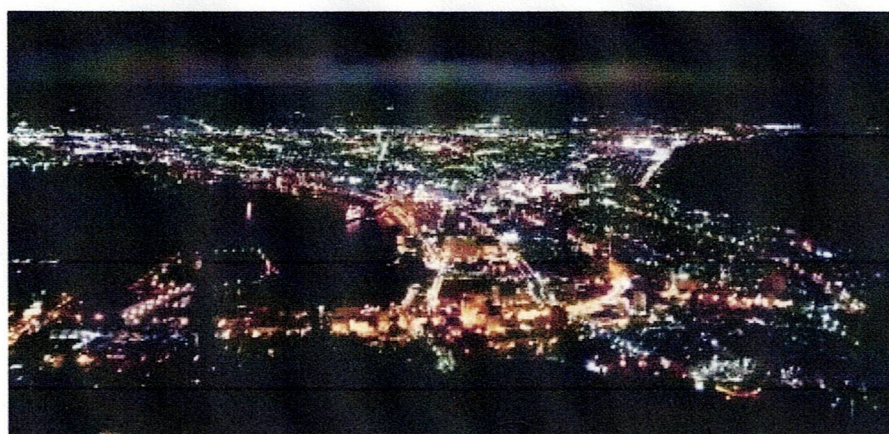
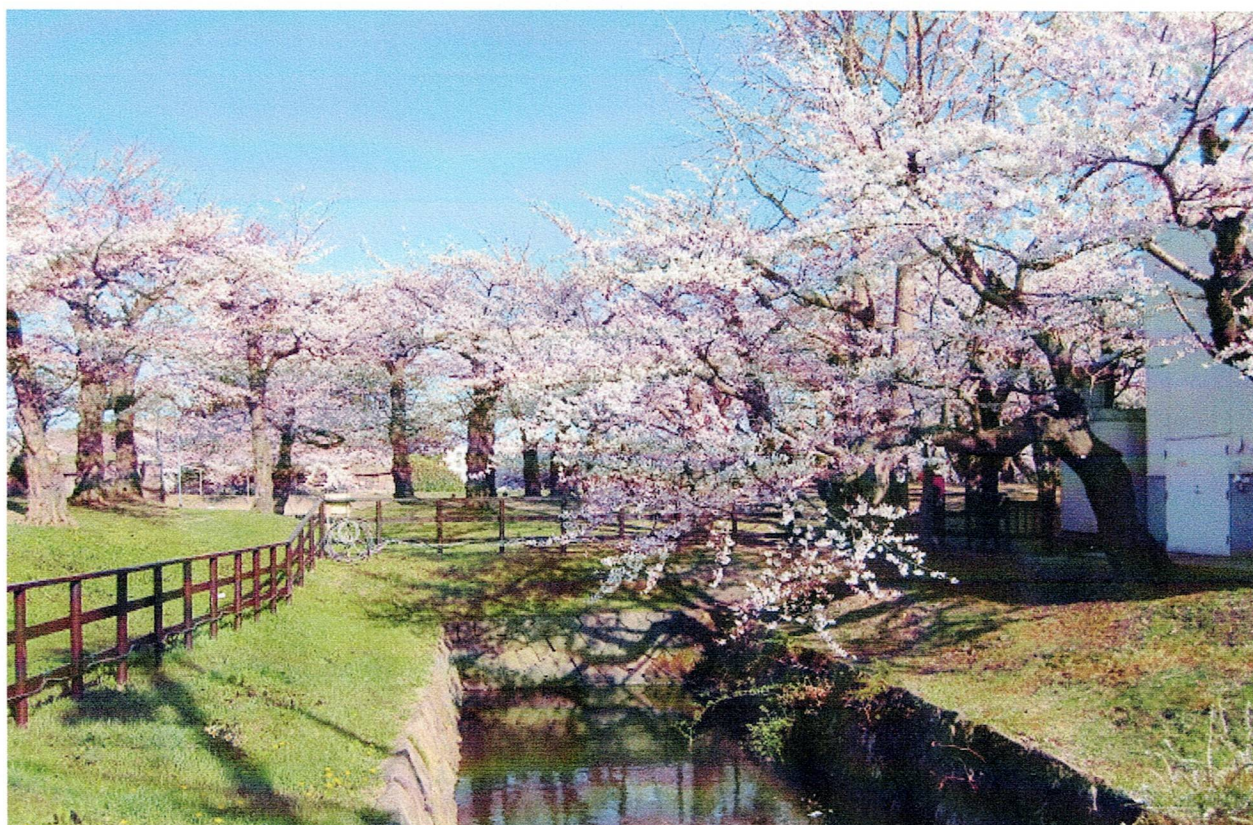
明治政府は、1869年3月、軍隊を派遣して旧幕府脱走軍への攻撃を開始、箱館戦争が始まった。脱走軍は圧倒的な戦力で進行してくる政府軍により五稜郭へ追い詰められ、土方歳三ら歴戦の面々も相次いで戦死し、旧幕府軍は降伏。幕末の動乱は終結した。



幕末の動乱—箱館戦争に使用された大砲(レプリカ)



雲海のような満開の桜並木 堀にある桜並木



函館駅構内で夕食を食べ、函館山行き 19 時発のバスに乗車、19 時半下車。展望台は気温 5 度前後でとても寒い中の撮影でした。19 時 45 分から並び始める。多くの乗客がいて 20 時 10 分発のバスで函館駅に戻り、ホテルに徒歩で向かう。函館市内の夜景を展望できて大変よかった

## ■ハリファックス市の概況

函館市の姉妹都市、ハリファックス市(カナダ東部、ノバスコシア州州都)の丘の上に、大きな星型に構築された城塞じょうさいがあります。この砦とりでの前にオールド・タウン・クロックがあり、1803年から時を告げ、市のシンボルとして市民に親しまれています。

この時計台は、オールド・タウン・クロックの一部を3分の1に縮小複製したものであり、両市の友好を願うとともに、函館市の新しい公共スペースのシンボルとして、行き交う人に時を知らせさしる喜びを与えてくれることを願ってつくられたものです。



プレミアムホテルに着いたら正面にあった珍しい時計台でしたので撮影した。

船のマストをイメージした函館駅



4月24日 宿(8:40)→函館駅(9:00発)→新函館北斗駅(9:18着9:35発東北新幹線)→新青森駅(10:37着)→昼食(11:15~12:10)→弘前公園(13:15~15:20)→青森の迎賓館(夕食16:30~17:30)→新青森駅(18:41発)→北斗駅着19:45→北斗市ホテル・ラ・ジェンド・プラザ函館北斗(20:00泊)



東北新幹線はやぶさ号 東京行き

青函トンネルの始点は、青森県東津軽郡今別町浜名。終点は北海道上磯郡知内町湯の里です。その総延長は53.85kmあり、総延長のうち23.3kmが海底部にあたり、海底からトンネルまでの最小土かぶりは100m、最大水深が140mと海底の浅いところを選んで掘ったため、津軽海峡の最短距離19kmより4.3km長くなっています。

## 本丸

面積約 14,200 m<sup>2</sup>の本丸は、四方に石垣が築かれ、江戸時代には御殿や能舞台が建てられていました。現在は、ソメイヨシノやシダレザクラをはじめ、数多くの桜が植えられ、ここから望む岩木山(標高1,625m)は、まさに絶景です。

## 弘前城天守

二代藩主信枚により慶長16年(1611)、本丸南西隅に五層の天守が築かれてましたが、寛永4年(1627)の落雷により焼失しました。現在の天守は文化7年(1810)に蝦夷地警備の功績を認められた九代藩主寧親が、本丸南東隅櫓の改築を理由に再建に着手し、翌8年に完成したものです。

江戸時代に造営された天守としては東北地方に現存する唯一のもので重要文化財に指定されています。



天守移動前の風景

現在、大正4年(1915)以来の100年ぶりの石垣修理のため、天守は本丸の内側(北西)に約70m移動しており、このパンフレットに記載の写真は天守移動前に撮影したものです。

## 北の郭

面積約9,300m<sup>2</sup>の北の郭は、西方から北方にかけて高さ約6mあまりの崖に面しています。北東隅には、二の丸に現存する三棟の櫓と同規模の三層の子の櫓がありました。

発掘調査により、子の櫓のほか、館神、柵蔵などの跡が確認され、本丸に次ぐ重要な郭であることが明らかになりました。

### 柵蔵跡

寛文12年(1672)に四代藩主信政の生母である久祥院の屋形が建てられ、廃藩の頃には、柵蔵が立ち並んでいました。

現在は柵櫓の礎石列を表示しています。

### 子の櫓跡

武具などを保管していた三層の櫓の跡で、展望デッキからはその芯柱の礎石など、発掘されたままの状態を見ることができます。

明治39年(1906)に花火が原因で焼失してしまいました。



天守移動前の夜桜

### 館神跡

太閤秀吉の木像をご神体として安置した場所で、ごく限られた人だけが出入りできる場所でした。

現在は鳥居、本殿の位置を木柱で表示しています。

### 武徳殿休憩所

明治44年(1911)に演武場として竣工し、その後休憩所として保存修理したもので、物産の販売や、喫茶コーナーのほか、北の郭で発見された出土品も展示しています。



日本の城はかつて 4~5 万ほどあったが、現在一般的に見学できるのは 200 ほど。そのうち江戸時代以前からの天守が残されているのは 12 城。天守の最初のもは、織田信長が建造した安土城の天守といわれています。それから江戸時代初期までの半世紀で 400 ほどの近世城郭が建造されたが、江戸幕府の「一国一城令」、明治政府の「廃城令」により多くが失われ、アメリカ軍の空襲でも失しなわれた。

**現存天守 12 城の 1 つである弘前城の天守閣**

他に、松本城（長野県）丸岡城（福井県）犬山城（愛知県）彦根城（滋賀県）姫路城（兵庫県）松江城（島根県）備中松山城（岡山県）丸亀城（香川県）伊予松山城（愛媛県）宇和島城（愛媛県）高知城（高知県）がある。6 月に備中松山城（岡山県）を 11 月に松江城（島根県）を見学する予定です。残り 2 城ですべて登城



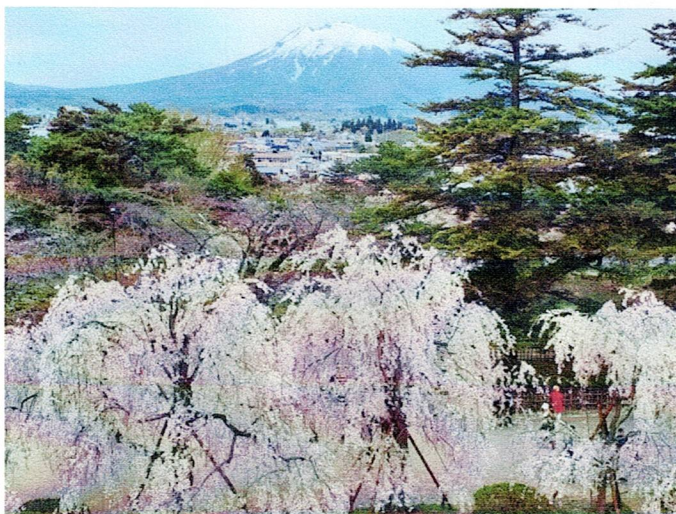
**弘前城の東門**

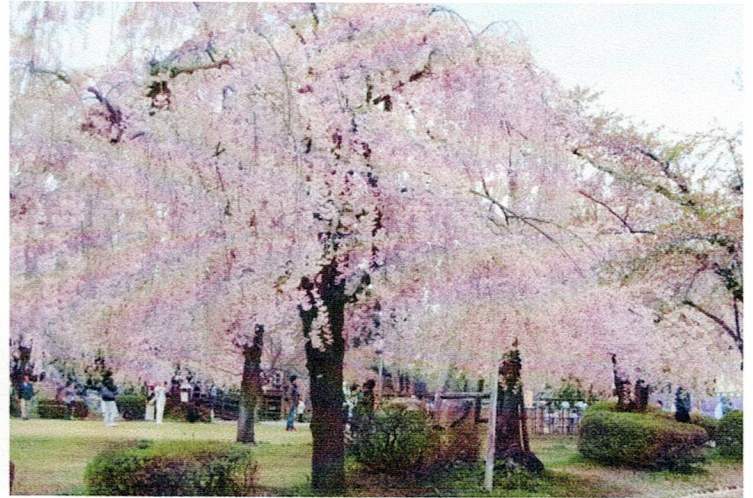
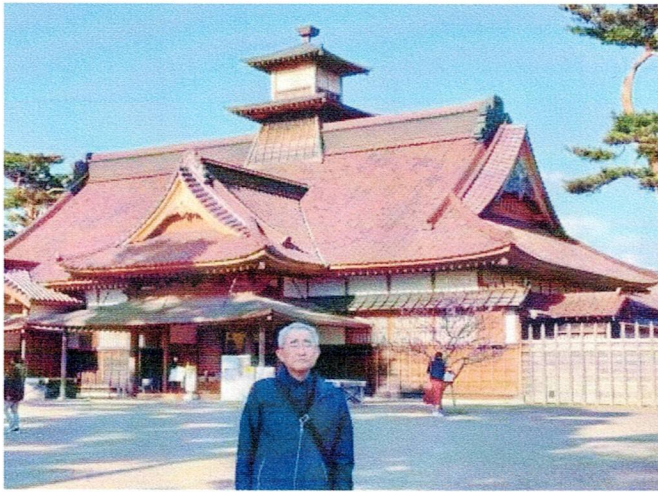
**弘前公園からの岩木山（標高 1625m）**

青森県の最高峰。中津軽郡岩木町（現在は弘前市）に位置し、山容が円錐形であることから津軽富士の別名がある。

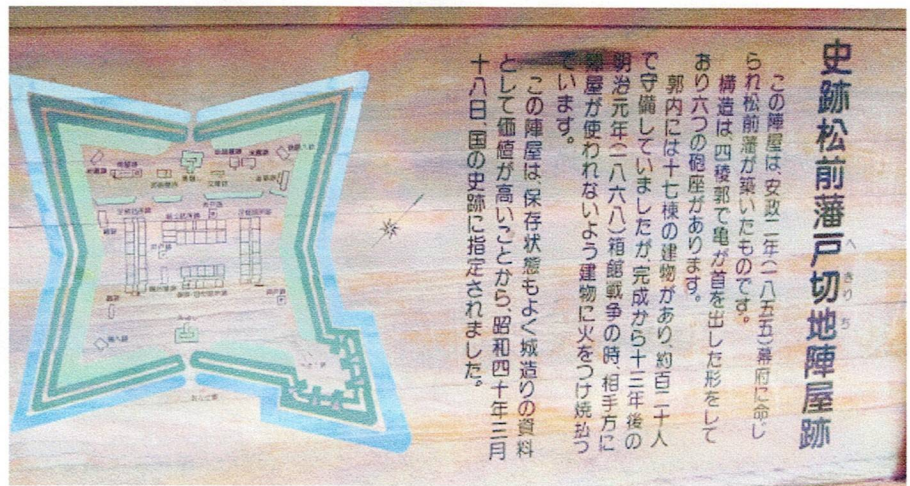
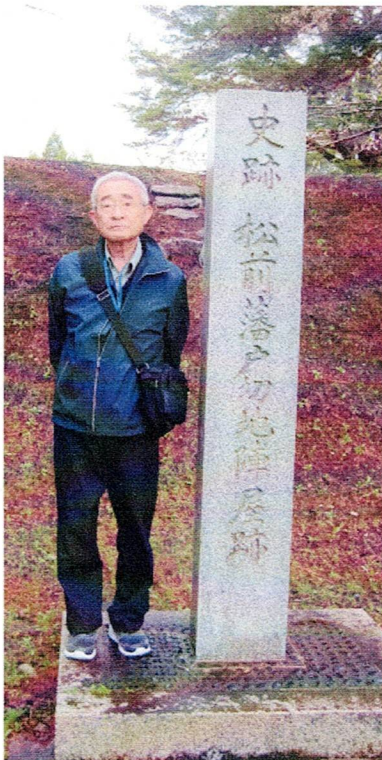
枝垂れ桜が満開

天守閣の前で





4月25日 宿(9:00) →法亀寺(9:10~940) →松前藩戸切地陣宿跡(9:50~10:20) →トラピスチヌ修道院(10:50~11:30) →函館空港(13:50発) →中部国際空港(15:20着)



箱館港の開港にともない幕府は蝦夷地の防衛を強化するために松前藩に陣屋を構築させました。

明治元年(1868)の箱館戦争で幕府脱走軍の進撃にともなって、守護隊の手によって自焼・放棄され、現在は国指定文化財として管理されています。道道から陣屋跡へ続く桜並木のトンネルは、桜の名所として知られています。陣跡が手裏剣の形をしている。

## 厳律シトー会天使の聖母トラピスチヌ修道院

天使の聖母トラピスチヌ修道院は、明治31(1898)年、フランスのウブシーにある修道院から8名の修道女が来たのが始まりである。キリスト教伝道のためには、修道院の精神的援助が必要であると、函館教区長ベルリオース司教が要請していたものであった。

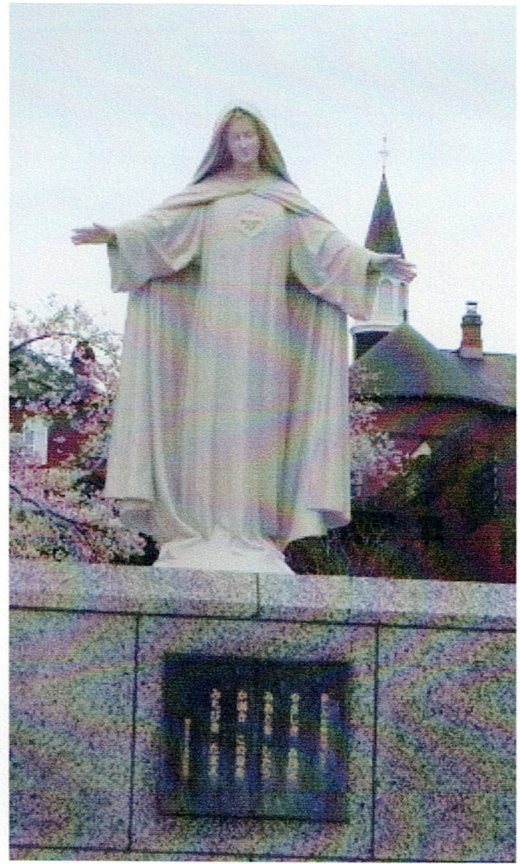
草創期の修道女たちの生活は困難を極め、それを見かねたフランスから、引き揚げが伝えられるほどであった。

現在の建物は大部分が大正14(1925)年の火災後、昭和2(1927)年に再建されたものである。

函館市



トラピスチヌ修道院内にて



聖マリア像

近くにあった白樺並木



法亀寺のしだれ桜

法亀寺は嘉永2年(1849年)、篤信家・中村金兵衛の願いで、箱館・実行寺第十五世金子日能師が、大野村東下町に法亀庵として許可されたのが始まりとされている。このお寺の境内にシダレザクラがあり、毎年春には美しい花を咲かせている。樹齢およそ300年と言われる道内最大級のしだれ桜。高さ12mほどで垂れ下がった枝一杯に見事に咲く。訪れた日はまだ早かったので近くにあった別の枝垂れ桜

感想：4月初めに鹿児島県・宮崎県・熊本県・大分県、下旬に箱館・弘前と多様な桜の恵を満喫でき、春を実感できた記憶に残る年でした。さらに、念願であった現存する天守閣を持つ弘前城の御城印ゲット、五稜郭タワーからの特別史跡五稜郭の風景、寒い中函館山からの光り輝く見事な夜景を見学できたことは価値ある2泊3日の旅でした。